

平成21年10月13日

第22回学術大会開催の報告とお礼

去る9月17日から19日に至る3日間、国立京都国際会館においてJASTRO第22回学術大会を開催し、無事に終了することができました。終了から早くも3週間以上が経ちました。今回は法人化後の最初の学術大会であり、かつ、医学物理学会との同時同所開催という新しい試みの大会でもありました。それ故に不退転の決意で大会に臨みましたが、多くの方から、「参加者数もさることながら、内容が大変素晴らしかった」との評価も頂きました。内容に関する評価は会員の皆様の日々の臨床と研究の水準の高さの反映に外なりません。この様に所期の目標を基本的に達成できたのも、発表を含め大会に係る様々な事業にご参加頂きました会員の皆様のご協力の賜で御座います。心より厚く御礼申し上げます。

学術大会に係る数字も略出揃いましたが、参加登録者は、会員（登録料を会員並の扱いとした者を含む）が1691名、非会員が240名、学生が111名の計2042名、そして名誉会員および招待講演者（特別講演、非会員のシンポジスト）など43名でした。以上より、純粋な学術目的での参加者は2079名に達しました。これは過去最多であり、大会が成功であったと総括できる数字です。また、この他、機器展示などで参加した企業関係者は400名で、これより、参加者総数は2485名となりました。何れも過去最多で、JASTROの学術大会史上、新たな高き峰に立ったとの思いでいます。

今大会の数字を見ますと、21世紀に入って以降の8年間に参加登録者は優に2倍超に達したことになります。2001年大会のスローガン「新世紀へJASTRO 飛翔」が実現しつつあるとも言えます。先輩諸氏の努力で蓄えてきたエネルギーが、学会の法人化、来年度には始まる自前（事実上の）による治療専門医制度などに結実しつつありますが、今、JASTROはビッグバンが起きたと考えることもできます。歩み来たりし道に確信を持ち、将来に向かって共に雄々しく進もうではありませんか。

会員の皆様の臨床と研究が今後益々発展することを祈念して御礼の挨拶といたします。

日本放射線腫瘍学会第22回学術大会長
小野 公二

